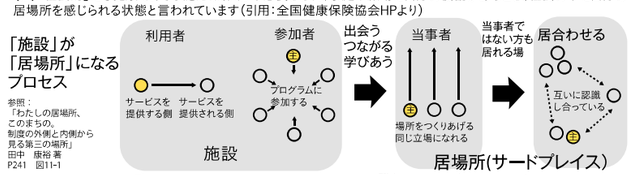
「町民ひとりひとり」が「自分の居場所と思える」場を皆でつくる

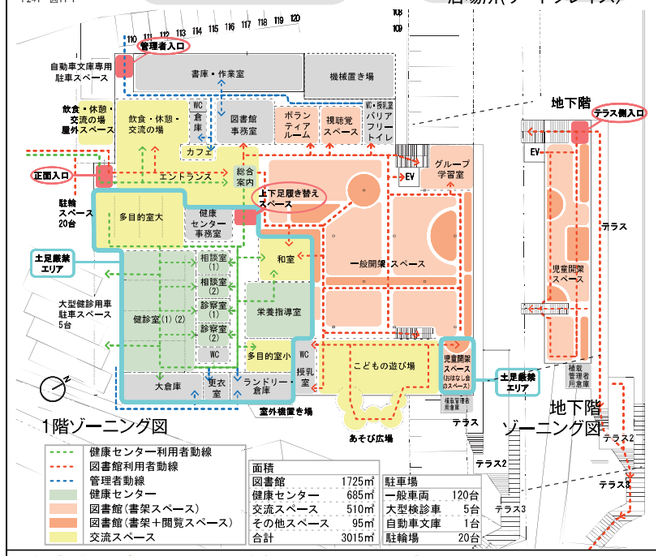
私たちは、公共施設や公園の指定管理・運営を熟知したチームです。機能（ハード・ソフト）の融合は、複合施設の諸室について、長与町民ひとりひとりが具体的に「こんなことが出来たらいいな」という活動を皆で意見を出し合い、そのアイデアに共感する方々が、時には当事者となり協力して実現するソフトと、それを支えるハードを融合させることが重要と考えています。設計チームは、町民の方々、職員の方々ともワークショップによる対話を丁寧に重ねていきますが、ワークショップの目的のひとつとして、交流スペースのソフト運営を共に担う町内外の人材の発掘や育成、官民が共創する仕組みの構築を目指しています。

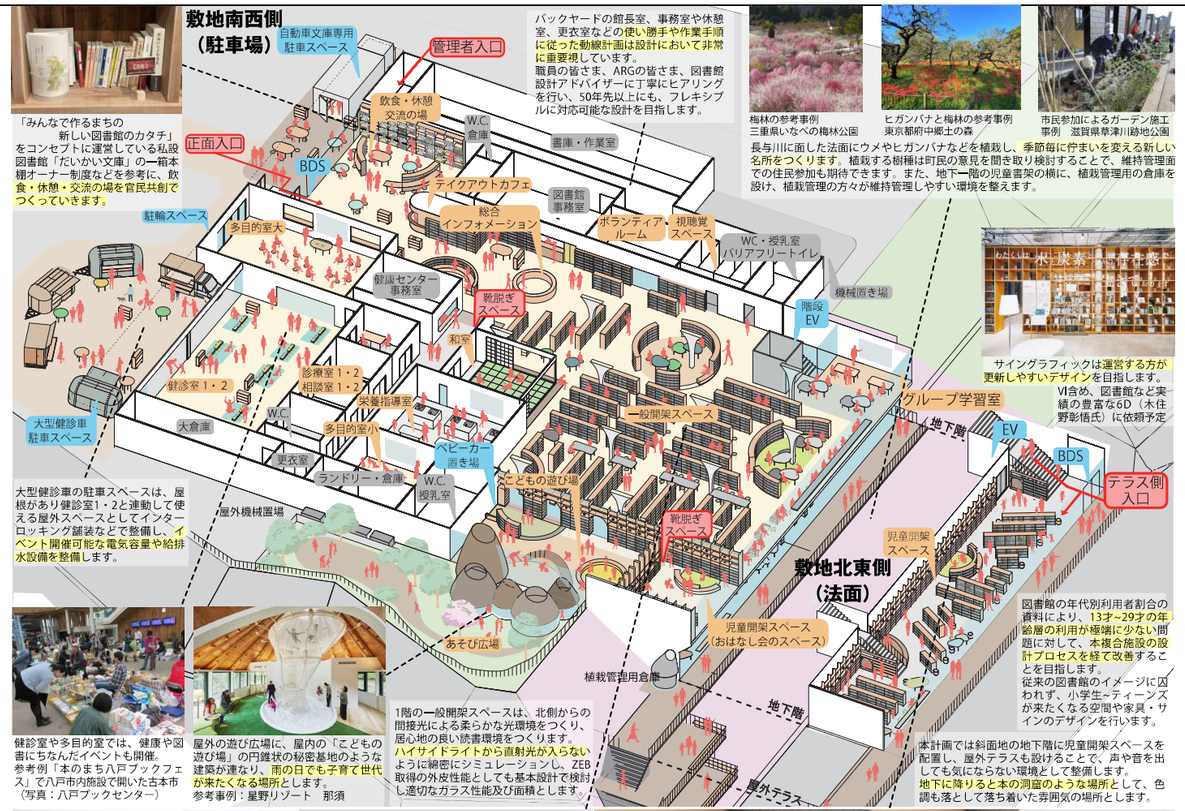
体や心だけでなく、「社会的」にも健康になれるサードプレイス

上述のプロセスを経て出来上がる公共施設は、用事のある時だけ施設を利用したり、プログラムに参加するだけでなく、町民ひとりひとりが居場所をつくる「当事者」になったり、参加してなくても一人で来て「居合わせる」ことで、体や心だけでなく「社会的」にも健康(※)になれる、長与町にとって大事なサードプレイスに育っていきます。

（※）「社会的」にも健康である状態とは、人から必要とされ、家庭や職場に自分の役割があること、社会の中に自分の居場所を感じられる状態と言われています（引用：全国健康保険協会HPより）









求められる各機能（ハード・ソフト）と機能融合

図書館機能を維持するにあたり、有効な配置 および 提案

図書館機能の声や音が気になるスペースに配慮

児童開架スペースを、一般書架の利用者がこどもの声や音が気にならないように、地下階にゾーニングし「本の洞窟」のような、知的好奇心を刺激しつつも居心地の良い場所づくりを目指します。
また、児童開架スペースのおはなし会コーナーは、交流スペースの「こどもの遊び場」に横に設け、連携したイベントが運営可能な配置としています。

健康センター機能を維持するにあたり、有効な配置 および 提案

衛生条件や開館時間の違いにも対応可能な配置計画

土足厳禁のエリアをまとめ、集団検診時の動線計画や衛生条件を丁寧に設計し、同時に町民の日常的な活動やイベントに対応可能な諸室の配置計画としています。
和室を図書館エリアと健康センターの中間に配置し、栄養指導室が一般貸出で食育活動、離乳食教室をした際に、図書館との共催イベントが可能な配置としています。

交流スペースにおいて、各機能と の 融合や活発な利用が想定される配置および 提案

ひとりでも、多人数でも「居合わせる」場所

「飲食・休憩・交流の場」を、図書館や健康センターに来る利用者が必ず通る総合エントランス近くに設け、図書館の雑誌・新聞コーナーやテーマ配架コーナーを隣接させることで、多世代が「居合わせる」場所であり、官民共創の運営がしやすい平面構成としています。

この先の時代変化にも対応することが可能な柔軟性 を持った提案

時代によってチューニングできるような設え

鉄骨造の建築（ハード）は、50年以上先の長与町の未来を支えるインフラとして、長与町民が心地よく過ごすための自然光にあふれ、維持管理費用を抑えた設計とします。また家具は、使い方（ソフト）や時代によってチューニングできるような設えとします。

求められる諸機能（外構や法面利活用等を含む）の 融合を実現し維持する手法について的確な提案

町民と共につくる地域に愛される花の名所

長与川に面した法面にウメやヒガンバナなどを植栽し、季節毎に佇まいを変える新しい名所をつくります。植栽する樹種は町民の意見を聞き取り検討することで、維持管理面での住民参加も期待できます。また、地下一階の児童書架の横に、植栽管理用の倉庫を設け、植栽管理の方々が維持管理しやすい環境を整えます。



脱炭素社会における建築の環境的配慮について

土地の性質や成り立ちを理解した長与らしさを体現する空間提案

自然豊かな長与町の風景や眺望 / 安定した地盤 / 中間期の卓越風を活かす

北東側に開いた自然豊かな長与町の眺望を活かすため、複合施設は北東側の切土地盤の上に「平屋+傾斜部に地階」で配置し、南西側に駐車場を配置します。また、4月~6月は南西の風向、9月~11月は北北東の卓越風を南北側のサッシから取り込み、中間期には自然換気を行い、空調負荷を低減します。

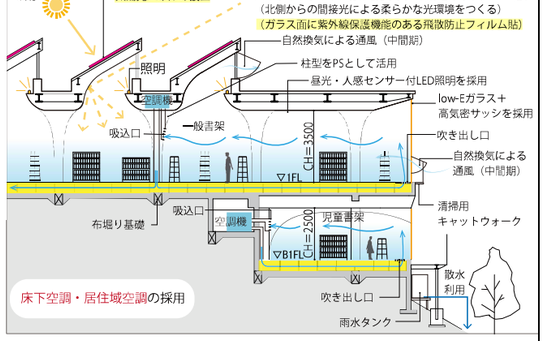
ZEBに向けてのエネルギー活用について有効な提案

「ゼロカーボンシティ長与」の考え方に沿った Nearly ZEB の認証取得

天井が高く常に人が居る図書館の一般・児童開架スペースでは、ふく射の温熱環境が有効です。床下を利用して、書架の足元から極低速で吹き出し、壁や柱からの吸い込み、床から2000mm程度の高さの範囲のみ空調を行う床下空調・居住域空調を検討します。また、常に使用されているわけでない部屋は個別空調とすることで、省エネルギー計画とします。

一般書架スペースは、ハイサイドライトから取り入れる北側からの間接光を拡散させ読書に適した柔らかな光環境をつくります。ハイサイドライト及び外壁のガラスの熱損失を防ぐため、low-Eガラス+高気密サッシを採用します。

一般開架屋上のハイサイドライトの南面（30度勾配）に太陽光パネルを設置し、パネル面積1000m2~700m2設置により、100kW~70kWの発電を想定しています。



型枠が不要な「布掘り基礎」を採用

布掘り基礎は掘った箇所に型枠を設けず、コンクリート基礎の打設が可能であり、無駄な廃棄物を出さず、かつイニシャルコストの縮減に繋がります。



布掘り基礎の掘削イメージ

発災時にも利用可能な雨水タンク

傾斜地に建設するメリットを活かして、雨水を貯留するタンクをテラスの下部に設置します。日常としては、梅林の植栽への散水利用として、水道の使用量を削減します。
また、災害時には西田公園の公衆トイレに活用するなどを検討します。

コスト縮減および工程管理に関する意識について

工事に対するイニシャルコスト、ランニングコスト を含めたライフサイクルコストの縮減を意識した提 案

地山に平屋建築を建てることで、イニシャルコストを縮減

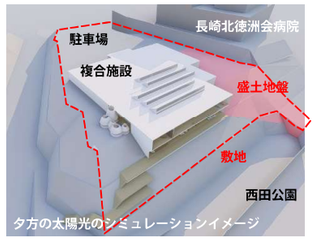
敷地のうち切土の安定した地盤の上に、平屋の建築を配置することで、地山が地表となっている箇所は、掘削量の少ない「布掘り基礎」を採用することで掘削土量と型枠工事費の削減が可能。



敷地同様の岩盤の30度勾配を持つ傾斜地に住宅を建てた実績

ランニングコスト縮減に繋がる配置及び外壁計画

建物全体の消費エネルギーに対する空調の割合が大きいことから、空調機の能力に関する点に着目し計画を行います。
①東西面の外壁に倉庫やトイレ、閉架書庫などを配置し、東西面からの日射負荷を低減
②複合施設への西日の日射負荷を軽減するため、病院側の擁壁沿いに建築を配置



赤色の箇所　が盛土地盤で複合施設を切土地盤に建設

各フェーズでの問題点を把握し R9.4 開館を見据えた 設計計画 および 工事計画

物価スライドを反映した早期の概算コストの算出

建設及び維持管理コスト縮減について、税金を適切に使用するため、設計初期段階から物価スライドを反映した概算コストを算出、フィードバックし、常に提案、検討、協議を行い、最適なコストでの設計を徹底します。

町民及び職員ワークショップと設計のクリティカルポイントの重ね合わせ

設計期間の初期段階で、ワークショップと設計工程を重ね合わせ、クリティカルになる設計の各段階において、職員の皆様と入念にすり合わせを行います。町民の方々が様々な形で施設づくりに関わることで、この場所への愛着が生まれ、町民ひとりひとりの「自分の居場所」が実現します。